

第71回区民体育大会総合開会式  
9月2日(日)

板橋区民のスポーツの祭典、第71回区民体育大会総合開会式が小豆沢体育館で開催されました。

国旗、区旗を先頭に、個人・団体の被表彰者団(板橋区スポーツ功労者・体育協会功労者)が続き、その後を32団体の選手団がそれぞれの競技のユニフォームに身を包み、堂々と入場行進をしました。  
選手団の整列後、開会宣言を皮切りに、優勝杯返還などのセレモニーが行われました。私たちスポーツ推進委員は、会場周辺での来場者への案内、来賓の受付、会場内での案内や表彰式の準備等、会場内外の様々な場所以の円滑な進行に尽力しました。  
来年3月まで、各会場で熱い戦いが繰り広げられ、数々のドラマが生まれることが期待されます。



入場行進の様子

平成30年度東京都スポーツ推進委員  
広域地区別研修会(第4ブロック)  
池袋IKE・Biz 9月1日(土)

今回の研修は「地域スポーツ活動の推進に向けたスポーツ推進委員の関わり方」がメインテーマ、「ハンディキャップの有無に関わらず、誰もが参加出来る楽しめるスポーツを目指して」がサブテーマでした。

第1部は、2016年のリオデジャネイロパラリンピック競技大会の水泳50メートル自由形で銅メダルを獲得した山田拓朗さん(NTTドコモ所属)のトークイベントでした。生まれつきの左腕のハンディを物ともせず3歳で始めた水泳を続け、3度目のパラリンピック競技大会出場で見事メダル獲得された経歴をユーモアを交えて話されました。



発表する藤田事業部長(中央)

このパネルディスカッションがありました。「これからのスポーツ推進委員の役割として重要なのは、スポーツへの多様な円滑な導入と継続、そしてコミュニティづくりという、地域スポーツの良循環づくりを行うことだ」と松尾先生は強調されました。

関東スポーツ推進委員研究大会  
6月8日(金) 9日(土)

平成30年度関東スポーツ推進委員研究大会東京大会が墨田区で開催されました。本大会は、1都8県(関東・山梨県及び長野県)の各市区町村約二千人のスポーツ推進委員が一同に集結しました。

今回のテーマは「スポーツが未来を変える」の一億総スポーツ社会の実現に向けたスポーツ推進委員の役割」です。第1日目は全体会で開会式や「スポーツ参画人口の拡大に向けて」というテーマでシンポジウムが開催されました。第2日目は第2分科会に参加しました。  
内容は「スポーツからアクティブライフへ」身体活動の習慣化に向けて」でした。  
働く世代の運動不足解消の取り組み事例や地域密着型スポーツ活動をどのように形成・発信するか等興味深いセッションが行われました。



第2分科会の講演風景

この研究大会で学んだ内容を参考に板橋区のスポーツ活動の向上に寄与できると考えております。

第43回板橋区・高島平ロードレース大会  
10月21日(日)



秋晴れの下、板橋区・高島平ロードレースが日本陸上競技連盟公認の5km周回コースで開催されました。5km、10km、20kmの種目には、全国から箱根駅伝や実業団で活躍する選手など1440名のエントリーがありました。ゲストランナーとして川内優輝選手、神野大地選手も加わり大会が盛り上がりました。私たちスポーツ推進委員は、選手受付、表彰、走路員として毎年この大会をお手伝いしています。沿道に埋め尽くす応援の方々から後押しされる姿を間近に見ながら心を打たれました。

第38回障がい者スポーツ大会  
9月29日(土)

大型で強い台風24号が迫る中、小豆沢公園野球場で開催されました。厚い雲に覆われたあいにくの天候でしたが、開会式に続き聖火リレーで6名のランナーが颯爽とグラウンドを回る姿はとても感動的でした。天候不順のため、プログラムが繰り上げられ、選手待望のパン食い競争からスタート。沢山の選手が参加されパンと格闘しゴールを目指しました。スポーツ推進委員は集合係・スタート係・ゴール係・用具係等、ボランティアの人達と一緒に担当しました。わくわく動物ランド(玉入れ)で雨空となり、残念ながら大会は閉会となりました。

今期スポーツ推進委員となり従事しましたが、このような大会が盛大に開催されていることを初めて知りました。東京2020パラリンピック競技大会に向けて、来年は雲一つない秋晴れのもと更に盛大に開催される事を期待します。



聖火リレー



選手宣誓

ふるさといたばし体操

Topics

初級障がい者スポーツ指導者講習会に参加して

障がい者スポーツについて、知識・法律を座学で学び、実技体験として、車いすバスケットやブラインドサッカーを行なうなど、障がい者のスポーツに対する姿勢全般を学ぶ良い機会でした。昨今、学校や社会では、子どもや大人の発達障がい者を支援する動きが加速しており、障がい者スポーツに係わる機会が意外に多いことに気付かされました。  
スポーツをする楽しさや勝負にこだわる気持ち、勝った時の高揚感等は皆一緒です。スポーツは、必死で戦っている選手だけではなく、応援する人も選手をバックアップする人も、スポーツに参加していると捉えることが大切であることも学びました。

世界は、東京2020大会で日本のノーマライゼーション社会をどのように評価するでしょうか。  
先日、駅で「お手伝いしましょうか。と、勇気を出して声を掛けてください。」とのアナウンスに、胸がほっこりしました。東京2020大会のレガシーの一つは、温かいノーマライゼーション社会の確立であり、お互いを理解する心だと思いました。(島村)

総合型地域スポーツクラブ



プリムラ「卓球」サークル指導者の岩本清太郎さんが板橋区よりスポーツ功労者表彰を受賞しました。プリムラでの活動が評価されての受賞は初めての事です。



スポーツは年代別に分けられてしまいがちですが、プリムラの卓球サークルでは年代を問わず、中学生から80歳代までが一緒に活動をしています。プリムラの趣旨「子どもからシニアまで誰でも参加！」が具現化された良い例でしょう。年代毎に横に並んでいるスポーツを縦に繋ぎたい。もちろん体格や体力を考慮して安全にそのスポーツを楽しめる範囲内での事です。

小・中学生時代にプリムラのサークルに参加していた子ども達が、高校・大学・社会人とスポーツを通じて大人になり、プリムラへ返ってくる人が出始めました。彼らが結婚し子ども達と家族で、それぞれの種目を楽しむようになれば多世代、多種目のクラブが出来上がるのではないかと思います。

まだまだ道半ばですが、皆さんの後押しを受けて目標に向かっていきます。

NPO法人志村スポーツクラブ・プリムラ  
理事長 浅見宗弘